

2021年5月10日

森林セラピー関係者の皆様へ

森林セラピーソサエティ
理事長 瀬上清貴

新型コロナ感染症変異型流行に当たっての森林セラピー実施上の留意点
ー新型コロナ変異型感染症下における行動指針に準拠する方針についてー

これまで、新型コロナ感染症の猛威が収まるまでは、業務の自粛をお願いしてきたところですが、1年経ってもその勢いは収まるどころか、脅威を増した変異株が全国各地で出現し、感染拡大が現実のものとなって来ております。変異によるウィルス亜型の出現可能性とその脅威については、機関誌第26号（本年1月20日発行）の巻頭言にも書き記した通りですが、残念ながらその予想に沿った進行となってきております。

変異型は、従来型よりも感染力が高いこと、症状が出てから重症化するまでの期間がかなり短くなっていること、40代～50代の重症患者が急増していることが、報道されております。感染性の高い変異型においても感染伝播の特徴は飛沫感染と接触感染であり、お互いがマスクを正しく着用すること及び手洗いの励行が感染対策の基本となります。呼気に含まれる極小粒子によるエアロゾルが長期間大気中を漂い残る可能性や長時間経った後の周辺空気を吸い込むことによる感染の可能性については、専門家は否定的ですが、くしゃみ等による生成直後のエアロゾルの直接的な飛来を避ける必要があることはもはや常識となっております。変異型に対しても予防対策は変わりませんが、一層厳しく予防に努めた方がお互いのためです。

では、森林セラピーの世界では特にどのような注意が必要でしょうか。例えば、森で歩きながらくしゃみをした時の粒子は一部が首から後方へ流れていく形で飛ぶという研究結果も出されています。生成直後のエアロゾルによる感染を防止するため、森での歩き方においてもクライアントには2メートル程度の間隔を取って頂くべきこと、歩きながらでも大声で話しあうことはご遠慮いただくべきこと、安息時や深呼吸プログラムの実践においても間隔を開け、密を避けることが必要です。そして接触感染の防止としては、多くの人が触れる鎖やロープ等を握った後には、顔や口に手をもっていくべきでないことは言うまでもありません。また、森林セラピストや森林セラピーガイドにあっては、説明が唾の飛沫を伴い感染機会を増大させる恐れがあることに十分留意して頂き、事前に資料を配ることで説明回数を減らし、また、決して大声を出さないこと、マスク着用の上にフェースマスクで2重の防備をして発声に臨むこと、呼吸法の実践には、クライアント相互の間隔も十分に取ることに努めるようにして頂きたいと思っております。さらに1回のプログラムの編成人数については、セラピスト、ガイドを含め、最大7名までに抑えて頂きたいと思っております。また、ガイド

の途中で他のグループと重なり合うこととか、クライアントが数珠つながりになる可能性のあるコースは選択しないようにお願いします。

本来であれば、医学の専門家をお願いしてこうした留意点をまとめたガイドラインを用意すべきところですが、本ソサエティの規模ではそれも困難でした。そこで、私どもの活動に最も近いと考えられる山岳ガイドの皆様がその活動のための行動指針を使っておられますので、それを是非皆様にご紹介し、今後の活動の参考にさせていただきたいと思う次第です。

「新型コロナウイルス感染症拡大防止のための行動指針（第1版追補版） With コロナのガイド指針 2020 ～感染に起因する諸問題への配慮～」(公益社団法人 日本山岳ガイド協会 発行) http://www.jfmga.com/pdf/corona_guideline_Vol.7.pdf

全文大変素晴らしい内容のものですが、文中特に、章4.2 Step2(8-11ページ)は、現在の状況に大変参考となるものと考えます。なお、作成に当たられた日本山岳ガイド協会の皆様には、この文面を通じて深く敬意を表し、併せて流用をさせていただきますことを感謝したいと思います。

(以上)